

施策番号	1341		
施策名	歩く魅力のあるまちづくり		
概要	まちの美化、自然・歴史的な景観の保全、市街地の町並み整備、道路のバリアフリー化に取り組み、安全快適で歩く魅力のあるまちづくりを推進する。		
担当局	建設局	共管局	都市計画局
上位政策	134 歩いて楽しいまちをつくる		

施策の評価

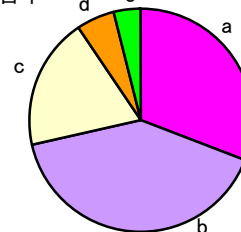
1 客観指標評価

		20年度	21年度	22年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	
1	歩道の整備延長(m)	d	a	2125	4320	4390	98.4%	a	
2	放置自転車の台数(台)	d	d	7896	4200	6514	135.5%	a	
3	バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数の割合(%)	a	a	53.2	53.2	53.2	100.0%	a	
4	景観重要建造物件数(件)	d	e	26	31	47	66.0%	d	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	-	-	-	-	-	-	-	-	
8	-	-	-	-	-	-	-	-	
9	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	-	-	-	-	-	-	-	-	
		c	b	客観指標総合評価					a

2 市民生活実感評価

設問	京都市は、まちの美しさや賑わいなどにより、歩いて楽しいまちである。					
回答	20		21		22	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a:そう思う	224	29.7%	190	30.7%	180	30.8%
b:どちらかというと思う	296	39.3%	266	43.0%	237	40.6%
c:どちらとも言えない	145	19.3%	103	16.6%	112	19.2%
d:どちらかというと思わない	59	7.8%	36	5.8%	33	5.7%
e:そう思わない	29	3.9%	24	3.9%	22	3.8%
有効回答数	753		619		584	
市民生活実感評価	a		a		a	

22回答率



- a:そう思う
- b:どちらかというと思う
- c:どちらとも言えない
- d:どちらかというと思わない
- e:そう思わない

* この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

3 総合評価（客観指標総合評価＋市民生活実感評価）

	20	21	22
客観指標総合評価	c	b	a
市民生活実感評価	a	a	a
総合評価	B	A	A
重み付け	(理由)		
☐ 客観指標 ☒ 市民の実感	この施策は、市民生活の充実感及び満足感を高めることが目的であるので、市民生活実感評価を重視する。		

4 原因分析・今後の方向性 ※客観指標総合評価，市民生活実感評価，事務事業評価の結果等を踏まえて記入

【原因分析】

- ・客観指標総合評価，市民生活実感評価ともに引き続き高い評価を維持している。
- ・特に「放置自転車の台数」が前回調査時から大きく減少しており，これは，自転車等駐車場の整備や撤去・啓発の強化の取組によるものと考えられる。

【今後の方向性】

- ・引き続き，安心快適で歩く魅力のあるまちづくりの推進を図るため，放置自転車等対策等に取り組む。また，今後は財政難による予算規模の縮小が予想されるため，整備延長については年度ごとのばらつきが生じ，評価値に影響を与える可能性があるため，整備量をなるべく平準化できるよう取り組んでいく。

（参考）この施策を実現するための事務事業

	事業名	21年度予算 (千円)*	22年度予算 (千円)*	21年度事務事業評価に おける今後の方向性	担当局
(従)	1 公衆トイレ整備	34,921	14,056	現状のまま継続	環境政策局
(従)	2 快適トイレのモデル導入	17,905	17,892	現状のまま継続	環境政策局
(従)	3 「世界一美しいまち・京都」の推進	46,691	45,591	現状のまま継続	環境政策局
(従)	4 風致地区規制指導事務	94,806	86,109	効率化等による見直し	都市計画局
(従)	5 違法開発監察事務	39,424	39,363	効率化等による見直し	都市計画局
(従)	6 自然風景保全地区規制指導事務	7,368	7,368	現状のまま継続	都市計画局
(従)	7 北白川丸山町緑地整備	118,442	88,160	現状のまま継続	都市計画局
(従)	8 三山森林景観保全・再生ガイドラインの作成	22,689	25,034	現状のまま継続	都市計画局
	9 交通施設バリアフリー化設備整備費補助	335,490	5,849	現状のまま継続	都市計画局
	10 電線類地中化	2,125,946	481,081	現状のまま継続	建設局
	11 交通安全施設等整備	548,400	1,062,000	現状のまま継続	建設局
	12 看板等路上物件適正化事業	63,978	65,190	現状のまま継続	建設局
	13 通行支障柱移設	86,911	86,911	現状のまま継続	建設局
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	合計	3,542,971	2,024,604		
	うち、主たる事業の合計 (従たる事業の合計)	3,160,725 (382,246)	1,701,031 (323,573)		

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む

施策名	1341	歩く魅力のあるまちづくり					
指標名	歩道の整備延長 (m)						
担当課	道路環境整備課		連絡先	2 2 2 - 3 5 7 0			
1 指標の説明							
重点整備地区における歩道補修及び交通安全施設整備事業の歩道整備の延長							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
だれもが安全で安心して活動し社会参加できるよう、安全で快適に歩けるバリアフリーな歩行空間の整備が進んでいるかを示す指標			重点整備地区及び安心歩行エリア内における歩道補修及び歩道整備の完成延長				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	20年度	21年度		数値	根拠	達成度	
数値	2125	4320	2,195m増	4390	21年度当初（14地区計画策定完了時点）の、整備未完の歩道整備改修計画延長÷5年	98.4%	
	全国順位	中長期目標			備考	20年度に14地区すべての道路特定事業計画の策定が完了したため、評価基準等を修正した。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値	-	21950	25	19.70%			20年度にすべての地区の道路特定事業計画が策定されたため、平成25年度までの中長期目標が定まった
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果			
a：単年度達成度 95%以上 b：単年度達成度 80%以上95%未満 c：単年度達成度 65%以上80%未満 d：単年度達成度 50%以上65%未満 e：単年度達成度 50%未満		道路特定事業計画の策定により中長期目標が定まったため、中長期目標を達成するために必要な単年度目標（残延長÷残年数）を定め、50%未満を最低値とし15%刻みで設定した。		20	21	22	
				d	a	a	

指標名	放置自転車の台数（台）						
担当課	自転車政策課		連絡先	2 2 2 - 3 5 6 5			
1 指標の説明							
京都市内の鉄道駅周辺における放置自転車の台数（調査実施2年ごと）							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
市内に放置自転車がどのくらいあるかを示す指標			事業担当課において調査・集計				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	19年度	21年度		数値	根拠	達成度	
数値	7896	4200	約46.8%減少	6514	過去最高の減少率を基準として、前年度数値×18%減を設定	135.5%	
	全国順位	中長期目標			備考	-	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値	-	-	-	-			-
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果			
単年度目標値における達成度が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：70%以上90%未満 d：50%以上70%未満 e：50%未満		放置台数は減少に向かうことが望ましいため、過去最高の減少率を基に100%以上の達成率をaとし、以下評価基準を設定した。 （参考） 過去最高の減少は平成11年度から平成13年度への減少率17.5%		20	21	22	
				d	d	a	

施策名	1341	歩く魅力のあるまちづくり		
-----	------	--------------	--	--

指標名	バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数の割合（％）			
-----	----------------------------------	--	--	--

担当課	歩くまち京都推進室	連絡先	2 2 2 - 3 4 8 3	
-----	-----------	-----	-----------------	--

1 指標の説明

平成14年に策定された「京都市交通バリアフリー全体構想」で選定した14の重点整備地区及び重点整備地区選定の対象となった地区において、バリアフリー化が必要とされる旅客施設のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手した施設の割合。

2 指標の意味

すべての人にやさしい駅として、バリアフリー化される施設整備の進ちょく状況を示す指標。

3 算出方法・出典等

地区移動円滑化基本構想策定着手施設数÷対象旅客施設数×100

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	20年度	21年度		数値	根拠	
数値	53.2	53.2	増減無し	53.2	対象となる旅客施設(47)のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手する旅客施設(25)の割合	100.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	—	53.2	22年	100.0%	対象となる旅客施設(47)のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手する旅客施設(25)の割合	整備対象地区数 14地区

5 評価基準

地区移動円滑化基本構想策定着手割合が
a：53%以上
b：40%以上53%未満
c：30%以上40%未満
d：20%以上30%未満
e：20%未満

6 基準説明

母数となる旅客施設のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手する旅客施設が占める割合（53%）をaとし、以下10%単位で基準設定した。
平成18年度 地区移動円滑化基本構想策定着手施設数 21、対象施設数 47
平成19年度 地区移動円滑化基本構想策定着手施設数 25、対象施設数 47
平成20年度 地区移動円滑化基本構想策定着手施設数 25、対象施設数 47
平成21年度 地区移動円滑化基本構想策定着手施設数 25、対象施設数 47

7 評価結果

20	21	22
a	a	a

指標名	景観重要建造物件数（件）			
-----	--------------	--	--	--

担当課	景観政策課	連絡先	2 2 2 - 3 3 9 7	
-----	-------	-----	-----------------	--

1 指標の説明

京町家をはじめとする地域の景観のシンボリックな役割を果たしている建築物等の数

2 指標の意味

地域の景観の維持及び向上に資する建物の状況を示す指標

3 算出方法・出典等

景観重要建造物の総合計
出典：事業担当課調査

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	20年度	21年度		数値	根拠	
数値	26	31	5件増加	47	前回数値(26)＋中長期目標を達成するための単年度増加件数（21）	66.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	全国 1 位	108	平成23年	28.7%	歴史的意匠建造物件数	中長期目標は目安値として設定。景観重要建造物件数の増加等を図るため、景観形成総合支援事業の制度拡充を国に要望している。

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：90%以上
b：80%以上90%未満
c：70%以上80%未満
d：60%以上70%未満
e：60%未満

6 基準説明

単年度目標値に対する90%以上の達成度が90%以上の場合を最高のaとし、以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

20	21	22
d	e	d